

部門賞 受賞者の紹介



環境工学部門功績賞 故 伊藤 定佑 先生 神奈川工科大学名誉教授

第4 技術委員会：
佐藤 春樹
慶應義塾大学

伊藤定佑先生は今から約4年前の2008年1月10日に肝臓のご病気でご逝去されました。神奈川工科大学で太陽エネルギー関連のシンポジウムを企画されており、その準備に追われ、とても仕事ができるお体ではなかったにも係らず奥様に運転してもらい大学と自宅を行き来されていたなかでのご逝去であったとお聞きしたように記憶しております。国際太陽エネルギー学会副会長や日本太陽エネルギー学会の要職も務められており、お亡くなりになる数日前に事務局に連絡されたとき冗談のように「僕はもう死ぬんだよ」と本当のことを告白されていたとのこと。最後の最後まで力を振り絞って太陽エネルギー利用のために命を賭けて頑張りぬいた先生に、尊敬と哀惜の念を抑えることができません。

2005年度の第83期部門長を先生がされていたときに、環境工学部門の活性化に邁進され、英文ジャーナルの発行準備を進め、また、近年になく300名以上の

参加者があり大成功であった第15回環境工学総合シンポジウムを室蘭工科大学で開催するとともに、部門将来構想検討委員会を設置し、技術委員会の壁を取り払って自由に情報交換する機会として「環境工学サロン」を企画するなど、これらは全て伊藤部門長の熱意の賜でした。さらに4年後の部門設立20周年となる2009年には国際会議をするようにと50万円を機械振興事業資金に組み入れてくださるなど、部門の将来を見据えた卓見により、現在の環境工学部門の礎を築いて頂きました。

お陰様で先生が熱意をもって進められた自然エネルギー利用への期待が世界的に高まってきております。2009年には「環境と技術に関する国際ワークショップ」を開催することができました。そして、部門将来構想検討委員会は、「部門組織・企画委員会」として定着し、新たな分野横断型の活動拠点として「先進サステナブル都市WG」を産み出し、昨年度は東日本大震災復興提案を行うなど、お陰様で先生の引かれたレールに沿って部門がここまで大きく発展したことをご報告したいと思います。

お亡くなりになってから3年以上も経って、大変遅くなりましたが、功績賞という形で部門に係わった者達全員を代表して、伊藤定佑先生に心からの感謝の気持ちを謹んで顕したいと思います。



環境工学部門研究業績賞を 受賞して

佐藤 岳彦
東北大学流体科学研究所

この度は、2011年度環境工学部門研究業績賞の受賞という栄誉に拝し、大変光栄に存じます。今までご

支援ご鞭撻を頂いた方々並びに関係者各位に心より御礼申し上げます。受賞対象は、大気圧プラズマ流と生体の相互作用に関する基礎研究ならびにプラズマ流の殺菌・医療分野への応用です。近年、インフルエンザパンデミックや院内感染、食中毒などが社会問題化していますが、プラズマ流を利用してこれらのリスクを安全・簡便に低減できることが明らかになりつつあります。2009年にプラズマ医療国際学会（ISPM）が創立されるなど、治療法への発展も進められている新し

い分野です。まだ、世界的にも研究者が少なかった10年ほど前からプラズマ殺菌の研究を始め、それまで基盤としてきたプラズマ流体力工学と融合することで、化学輸送機構や細菌の不活化機構などを解明してきました。これまで、環境工学部門において新しい研

究分野を創成してきたことが評価されたのであれば、大変嬉しく思います。今後も、本研究の受賞を励みにし、次世代低温殺菌装置の開発など、病原性細菌やウイルスなど我々の健康を脅かす問題の解決に向けて全力で取り組んでいく所存です。



環境工学部門技術業績賞を受賞して

飯田 明由
豊橋技術科学大学

この度は、たいへん栄誉ある環境工学部門技術業績賞を賜り、心から御礼申し上げます。受賞対象となった技術は「空力騒音に関する実験解析技術」であり、音環境の快適化という社会のニーズとあったことが受賞につながったと考えております。私が空力騒音に関する研究に携わったのは、大学を卒業して日立製作所に入社した1989年からになります。当時、国鉄が分割民営化されたことにより、「より早く、より安全に、より快適」とサービス面での競争が激しくなりました。これに対応して新幹線の騒音、特に空力騒音に関する研究開発が重要となりました。国内での空力騒音に関する研究が盛んになった非常に良いタイミングで

この分野の研究に携われたこと、それをずっと続けられたことが良かったと思っています。基礎実験用の風洞開発やマイクアレイを用いた実車試験、空力騒音計測技術の開発やコンピュータシミュレーションなど、現在よりも技術自体が稚拙であった分、すべてにかかわることができたことが良かったと考えています。私自身の専門は流体力学ですが、環境工学部門を通じて、振動・音響解析の専門家と交流することができたことも技術の幅を広げていくのに役立ちました。学会を通じてご指導くださった皆様に感謝いたします。空力騒音の分野も数値解析による研究が盛んになってきております。「京」に代表される次世代スーパーコンピュータを用いて、自動車の空力・振動・音響連成解析に関する取り組みもスタートしております。今回の受賞を励みとして、さらに研究活動に邁進し、豊かな音環の都市づくり、製品づくりに貢献できる成果を公表し続けていければと考えています。この度は本当にありがとうございました。